



今年に入ってから、回転寿司チェーンを中心とした飲食店における迷惑動画の炎上騒動が収まるどころを見せません。今回の騒動は、年明けに「はま寿司」において、他の人が注文した寿司を皿を取らずに食べる様子が TikTok に動画でアップされた頃から注目されるようになりました。そして1月末に「スシロー」において、醤油ボトルの注ぎ口などを舐めて元の場所に戻す行為が大炎上して社会問題化に発展しています。おそらく、莫大な損害賠償が発生することと思います。

学校も例外ではなく、スマホ、SNS を介したトラブルが多くなっています。

第三者への誹謗中傷や差別的発言、モラルを問われそうな画像・動画投稿をするために「ないすまし」や「裏アカ(裏垢)」を使うなど、トラブルや事故事例も巧妙化してきています。ある意味、大人よりも子どもの知識の方が高いということが言えるでしょう。



最近では、学校で起こるほとんどのトラブルにスマホ、SNSなどが絡んでいますので、事実を把握するのが難しくなってきました。保護者の皆様にはお願いしたいのは、スマホを持たせるときのルールやリスクについて、親子で十分に会話をしてもらいたいということです。そして、私たち大人は、目にするスマホ画面と全く違う画面や見えない画面が存在するかもしれないということを知っておく必要があります。

2019年、大阪で自宅を出たまま行方不明となっていた小学6年女児が栃木県で保護された事件がありました。当時はかなり大きなニュースとして扱われたので、無事でよかったと胸をなで下ろしたのですが、同時になぜ栃木？と思いました。そして、やはりそこにはスマホが関係していて、SNSでの繋がりが確認されています。

「とても長く感じました」「生きた心地がしなかったです」

「もう会えないかもしれないというのは考えなくなかったですけど、やはりよぎりました」

「ついて行った娘が悪いというのは分かっていますが、6日ほど監禁したことは許せないです」

児童が保護されたあとに母親が語ったことばです。



以下、2019.11.26 宮崎日日新聞の記事から抜粋です。

母親は女兒のスマートフォンを定期的にチェックしているが、今月上旬に見た際も不審なやりとりは確認できなかった。だが事件に巻き込まれ「うちの子は大丈夫と過信した」と反省を示した。

母親もスマホを持たせるにあたって気を付けていたようですが、定期的なチェックも限界があるということでしょう。スマホは便利な反面、使い方次第で善にも悪にもなる情報機器です。

子どもにスマホを持たせる＝大人の責任です。